

公開シンポジウム（案）
「沖縄の子育て事情と子ども・子育て支援新制度への対応
—学習指導要領改訂論議を視野に—」

登壇者：無藤 隆（白梅学園大学）
寶來生志子（横浜市こども青少年局）
宮國 義人（沖縄県教育委員会）
末広 尚希（ライオンの子保育園）
司 会：馬居 政幸（馬居教育調査研究所）
西本 裕輝（琉球大学）

沖縄県は残念ながら、子育てにおいてさまざまな問題を抱えていると言える。学力が低いことは知られているが、その背景には、出生率1位（※にもかかわらず）、失業率1位、離婚率1位、県民所得最下位など、子育ての条件の厳しさもあると考えられる。また小学校入学前の1年間、1年制の公立幼稚園に通い、午後から行き場を失ったり、二重保育に陥ったりするなど、幼児教育段階での空白期間が生じる「5歳児問題」という沖縄独自の問題も存在している。

そうした中で注目したいのが「子ども・子育て支援新制度」である。平成24年8月に成立した子ども・子育て関連3法に基づくこの制度では、「認定こども園」の充実が重要な柱の一つとなっており、こども園を充実させることにより、空白期間が埋められることにより解決する沖縄の問題も多いと思われる。

さらに、質の高い保育と教育を共に提供する制度の拡充は、小1プロブレムを解決するスタートカリキュラムを介して、全国の小学校教育に今後求められる新たな資質・能力育成の方法（アクティブラーニング）や教育課程の在り方（カリキュラムマネジメント）にも影響すると考える。「学習指導要領改訂論議を視野に」を副題にした理由である。

このように、本シンポジウムは、沖縄の抱える保育と学力の問題とそれを解決する可能性と進むべき方向を議論することを通して、我が国全体が抱える幼児期の保育と教育の課題について一石を投じることを目的とする。

そこで登壇者として、多くの保育・幼児教育と学習指導要領改訂に関わる政府審議会や調査研究会の座長を務め、我が国の改革をリードする無藤隆氏、横浜市において全国に先駆け「待機児童ゼロ」を達成し「横浜版接続期カリキュラム」の実践に関わる寶來生志子氏をお迎えし、子育て新制度の可能性とスタートカリキュラムの課題について論じていただく。

また沖縄側からは、保育園を自ら経営し、那覇市みらい会議など、数々の委員を務める末広尚希氏、幼小連携を推進する沖縄県教育委員会義務教育課から宮國義人氏をお迎えし、沖縄の現状について報告していただく。

以上の登壇者からの提案をふまえ、フロアからの意見もいただきつつ、沖縄ひいては我が国の子育ての進むべき方向について提案していきたい。